

## 4. 農家意向調査結果

### 1) 回答者の属性について

問 1. 以下の項目について、それぞれ当てはまるもの 1 つに○印をつけてください。

表 3-84 及び表 3-85 は回答者の性別と年代を表している。性別をみると、「男性(245 件、89.1%)」、「女性(30 件、10.9%)」であった。年代では、「60 歳代(99 件、34.9%)」が最も多く、次いで「50 歳代(67 件、23.6%)」、「70 歳代(64 件、22.5%)」となり、60 歳以上の回答者が 70%以上であった。

表 3-84 性別

	件数	割合
1. 男性	245	89.1%
2. 女性	30	10.9%
合計	275	100.0%

表 3-85 年代

	件数	割合
10歳代	0	0.0%
20歳代	1	0.4%
30歳代	3	1.1%
40歳代	11	3.9%
50歳代	67	23.6%
60歳代	99	34.9%
70歳代	64	22.5%
80歳代以上	39	13.7%
合計	284	100.0%

表 3-86 及び表 3-87 は、回答者の家族構成と同居家族の人数を表している。家族構成は、「3. 親と子どもの 2 世代家族(112 件、40.0%)」が最も多く、次に「4. 祖父母と親と子どもの 3 世代家族(64 件、22.9%)」であった。これは、市民意識調査の結果と比較して「4. 祖父母と親と子どもの 3 世代家族」の割合が多い。同居家族の人数については、「3 人(63 件、22.8%)」が最も多く、次いで「4 人(59 件、21.4%)」であった。2 人世帯が最も多かった市民意識調査の結果よりも農家の同居家族の人数が多い結果であった。

表 3-86 家族構成

	件数	割合
1. 一人暮らし	21	7.5%
2. 夫婦のみの世帯	53	18.9%
3. 親と子どもの2世代家族	112	40.0%
4. 祖父母と親と子どもの3世代家族	64	22.9%
5. その他	30	10.7%
合計	280	100.0%

表 3-87 同居家族の人数

	件数	割合
1人	22	8.0%
2人	56	20.3%
3人	63	22.8%
4人	59	21.4%
5人	37	13.4%
6人	26	9.4%
7人以上	13	4.7%
合計	276	100.0%

表 3-88 は、回答者の農作業従事時間ごとの農業従事家族の人数を表している。1 家族当たりの平均農業従事人数は「男性(1.06 人)」、「女性(0.77 人)」であった。農作業従事時間ごとにみても、「年間 150 日以上」と回答した 1 家族当たりの平均人数は「男性(0.69 人)」であり、「女性(0.33 人)」を大きく上回った。また、農作業従事時間ごとの農業従事家族の「内 60 歳未満割合」をみても、男女ともに「年間 60 日未満」が最も高かった。

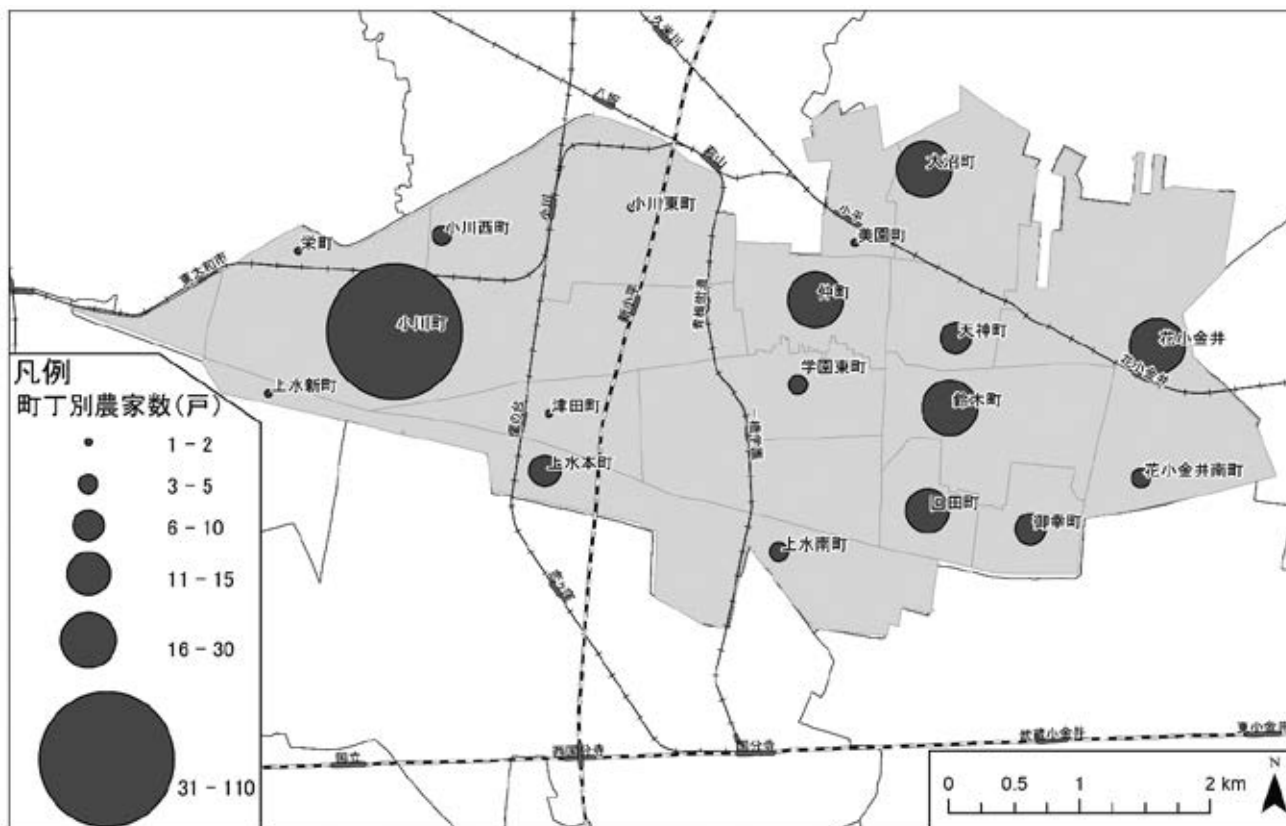
表 3-88 農作業従事時間ごとの農業従事家族の人数(男女別)

(有効回答数:263)

	男性			女性		
	延べ人数	平均人数	内60歳未満割合	延べ人数	平均人数	内60歳未満割合
年間60日未満	42	0.16	66.7%	59	0.22	71.2%
年間60日～149日	55	0.21	56.4%	57	0.22	43.9%
年間150日以上	182	0.69	50.5%	87	0.33	46.0%
合計	279	1.06	54.1%	203	0.77	52.7%

図 3-72 は、町丁別に回答農家数を表している。東部地域では花小金井、大沼町、鈴木町、中部地域では仲町、西部地域では小川町で多くの回答が得られた。

図 3-72 町丁別回答農家数



## 2) 農業生産・販売について

問 2. あなたが生産している農畜産物について、農業収入が第1位のもの1つに◎印、第2位以降のものには2つまで○印をつけてください。

表 3-89 は、農畜産物別の農業収入の順位を表している。農業収入が「第1位」のものについては、「1. 露地野菜(95 件、34.3%)」が最も多く、次いで「5. 果樹(ぶどう、なし、ブルーベリー、柿など)(25 件、9.0%)」であった。これらの栽培品目で全体の 43.3%を占めている。また、「第2位以降」においても同様の結果であった。

表 3-89 農畜産物別の農業収入の順位

(有効回答数: 277)

	第1位(◎)		第2位以降(○)	
	件数	割合	件数	割合
1. 露地野菜	95	34.3%	115	41.5%
2. 施設野菜	6	2.2%	35	12.6%
3. 植木・造園	10	3.6%	21	7.6%
4. 花卉	4	1.4%	15	5.4%
5. 果樹(ぶどう、なし、ブルーベリー、柿など)	25	9.0%	68	24.5%
6. 果樹(うめ、くり)	6	2.2%	55	19.9%
7. その他	3	1.1%	12	4.3%
合計	149	53.8%	321	115.9%

問 3. 現在、販売はどのような方法で行っていますか。又、今後どのような方法をとりたいですか。【現在】と【今後】のそれぞれ 1～13 の選択肢のなかから当てはまるものすべてに○印をつけてください。

表 3-90 は、現在行っている販売方法を表している。「3. 個人で直売(庭先販売、直売スタンド、無人店舗、宅配便) (207 件、75.0%)」が最も多く、次いで「2. 小平ファーマーズ・マーケットで販売(64 件、23.2%)」、「5. 学校給食に供給(56 件、20.3%)」であった。

表 3-91 は、今後行いたい販売方法を表している。「3. 個人で直売(庭先販売、直売スタンド、無人店舗、宅配便)(180 件、73.2%)」が最も多く、次いで「2. 小平ファーマーズ・マーケットで販売(75 件、30.5%)」、「5. 学校給食に供給(56 件、22.8%)」であった。

表 3-90 現在行っている販売方法

(有効回答数:276)

	件数	割合
1.市場に出荷	54	19.6%
2.小平ファーマーズ・マーケットで販売	64	23.2%
3.個人で直売(庭先販売、直売スタンド、無人店舗、宅配便)	207	75.0%
4.スーパーなどへ契約出荷	14	5.1%
5.学校給食に供給	56	20.3%
6.飲食店への出荷	17	6.2%
7.もぎ取りや摘み取りで消費者に販売	23	8.3%
8.東京都など公共団体と契約して販売	4	1.4%
9.造園利用・造園卸し	19	6.9%
10.ジャム等加工品として販売	8	2.9%
11.インターネット等の通信販売	1	0.4%
12.産業まつり等のイベント	32	11.6%
13.その他	28	10.1%
合計	527	190.9%

表 3-91 今後行いたい販売方法

(有効回答数:246)

	件数	割合
1.市場に出荷	47	19.1%
2.小平ファーマーズマーケットで販売	75	30.5%
3.個人で直売(庭先販売、直売スタンド、無人店舗、宅配便)	180	73.2%
4.スーパーなどへ契約出荷	16	6.5%
5.学校給食に供給	56	22.8%
6.飲食店への出荷	17	6.9%
7.もぎ取りや摘み取りで消費者に販売	27	11.0%
8.東京都など公共団体と契約して販売	9	3.7%
9.造園利用・造園卸し	18	7.3%
10.ジャム等加工品として販売	12	4.9%
11.インターネット等の通信販売	6	2.4%
12.産業まつり等のイベント	24	9.8%
13.その他	25	10.2%
合計	512	208.1%

表 3-92 及び図 3-73 は、現在行っている販売方法を市内所有農地面積別に表している。「1. 市場に出荷」、「2. 小平ファーマーズ・マーケットで販売」、「4. スーパーなどへ契約出荷」、「5. 学校給食に供給」は、農地面積の大きさにおおむね比例して割合が高くなる傾向がみられた。

表 3-92 現在行っている販売方法(市内所有農地面積別)

	1.市場に出荷	2.小平ファーマーズ・マーケットで販売	3.個人で直売(庭先販売、直売スタンド、無人店舗、宅配便)	4.スーパーなどへ契約出荷	5.学校給食に供給	6.飲食店への出荷	7.もぎ取りや摘み取りで消費者に販売	8.東京都など公共団体と契約して販売	9.造園利用・造園卸し	10.ジャム等加工品として販売	11.インターネット等の通信販売	12.産業まつり等のイベント	13.その他	有効回答数
10a以下	3	4	27	0	1	0	3	0	0	1	0	3	3	32
10a超20a以下	4	5	23	1	3	0	3	0	3	1	1	4	8	39
20a超30a以下	6	9	26	0	4	2	4	0	0	2	0	1	5	37
30a超40a以下	4	2	19	1	4	4	3	1	3	0	0	1	2	26
40a超50a以下	3	4	17	1	6	1	3	0	0	1	0	2	3	22
50a超60a以下	6	9	14	1	5	0	0	2	3	0	0	5	1	17
60a超70a以下	5	4	15	2	6	0	0	0	5	0	0	3	0	18
70a超80a以下	1	5	7	1	5	3	0	0	0	1	0	2	1	8
80a超90a以下	3	4	8	2	4	0	1	0	0	1	0	1	3	12
90a超100a以下	3	4	7	1	4	0	1	0	1	0	0	1	0	8
100a超	10	9	16	4	9	2	5	0	1	1	0	4	0	22

図 3-73 現在行っている販売方法(市内所有農地面積別)

	1.市場に出荷	2.小平ファーマーズ・マーケットで販売	3.個人で直売(庭先販売、直売スタンド、無人店舗、宅配便)	4.スーパーなどへ契約出荷	5.学校給食に供給	6.飲食店への出荷	7.もぎ取りや摘み取りで消費者に販売	8.東京都など公共団体と契約して販売	9.造園利用・造園卸し	10.ジャム等加工品として販売	11.インターネット等の通信販売	12.産業まつり等のイベント	13.その他
10a以下	9.4%	12.5%	84.4%	0.0%	3.1%	0.0%	9.4%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	9.4%	9.4%
10a超20a以下	10.3%	12.8%	59.0%	2.6%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	2.6%	2.6%	10.3%	20.5%
20a超30a以下	16.2%	24.3%	70.3%	0.0%	10.8%	5.4%	10.8%	0.0%	0.0%	5.4%	0.0%	2.7%	13.5%
30a超40a以下	15.4%	7.7%	73.1%	3.8%	15.4%	15.4%	11.5%	3.8%	11.5%	0.0%	0.0%	3.8%	7.7%
40a超50a以下	13.6%	18.2%	77.3%	4.5%	27.3%	4.5%	13.6%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	9.1%	13.6%
50a超60a以下	35.3%	52.9%	82.4%	5.9%	29.4%	0.0%	0.0%	11.8%	17.6%	0.0%	0.0%	29.4%	5.9%
60a超70a以下	27.8%	22.2%	83.3%	11.1%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	27.8%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
70a超80a以下	12.5%	62.5%	87.5%	12.5%	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	25.0%	12.5%
80a超90a以下	25.0%	33.3%	66.7%	16.7%	33.3%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	25.0%
90a超100a以下	37.5%	50.0%	87.5%	12.5%	50.0%	0.0%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%
100a超	45.5%	40.9%	72.7%	18.2%	40.9%	9.1%	22.7%	0.0%	4.5%	4.5%	0.0%	18.2%	0.0%

表 3-93 及び図 3-74 は、今後行いたい販売方法を市内所有農地面積別に表している。「1. 市場に出荷」、「2. 小平ファーマーズ・マーケットで販売」、「4. スーパーなどへ契約出荷」、「5. 学校給食に供給」は、農地面積の大きさにおおむね比例して割合が高くなっており、現在行っている販売方法と同様の傾向がみられた。

表 3-93 今後行いたい販売方法(市内所有農地面積別)

	1.市場に出荷	2.小平ファーマーズ・マーケットで販売	3.個人で直売(庭先販売、直売スタンド、無人店舗、宅配便)	4.スーパーなどへ契約出荷	5.学校給食に供給	6.飲食店への出荷	7.もぎ取りや摘み取りで消費者に販売	8.東京都など公共団体と契約して販売	9.造園利用・造園卸し	10.ジャム等加工品として販売	11.インターネット等の通信販売	12.産業まつり等のイベント	13.その他	有効回答数
10a以下	3	7	26	0	2	1	3	0	0	1	0	3	3	30
10a超20a以下	4	6	18	0	3	0	4	0	3	3	1	3	7	35
20a超30a以下	2	5	24	2	4	2	4	0	0	2	0	0	6	32
30a超40a以下	5	6	18	2	4	3	4	1	3	1	1	1	1	24
40a超50a以下	3	5	15	1	5	1	1	1	0	1	0	0	2	20
50a超60a以下	5	8	10	0	4	0	1	3	3	0	1	4	1	15
60a超70a以下	5	6	15	2	6	2	1	0	4	0	0	1	0	17
70a超80a以下	0	6	6	1	5	3	0	0	0	1	0	2	0	7
80a超90a以下	2	4	7	3	5	1	2	2	0	1	0	1	2	10
90a超100a以下	1	5	6	1	4	0	1	1	2	1	0	1	0	8
100a超	10	11	15	4	10	2	5	0	1	1	2	4	1	20

図 3-74 今後行いたい販売方法(市内所有農地面積別)

	1.市場に出荷	2.小平ファーマーズ・マーケットで販売	3.個人で直売(庭先販売、直売スタンド、無人店舗、宅配便)	4.スーパーなどへ契約出荷	5.学校給食に供給	6.飲食店への出荷	7.もぎ取りや摘み取りで消費者に販売	8.東京都など公共団体と契約して販売	9.造園利用・造園卸し	10.ジャム等加工品として販売	11.インターネット等の通信販売	12.産業まつり等のイベント	13.その他
10a以下	10.0%	23.3%	86.7%	0.0%	6.7%	3.3%	10.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	10.0%	10.0%
10a超20a以下	11.4%	17.1%	51.4%	0.0%	8.6%	0.0%	11.4%	0.0%	8.6%	8.6%	2.9%	8.6%	20.0%
20a超30a以下	6.3%	15.6%	75.0%	6.3%	12.5%	6.3%	12.5%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	18.8%
30a超40a以下	20.8%	25.0%	75.0%	8.3%	16.7%	12.5%	16.7%	4.2%	12.5%	4.2%	4.2%	4.2%	4.2%
40a超50a以下	15.0%	25.0%	75.0%	5.0%	25.0%	5.0%	5.0%	5.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	10.0%
50a超60a以下	33.3%	53.3%	66.7%	0.0%	26.7%	0.0%	6.7%	20.0%	20.0%	0.0%	6.7%	26.7%	6.7%
60a超70a以下	29.4%	35.3%	88.2%	11.8%	35.3%	11.8%	5.9%	0.0%	23.5%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%
70a超80a以下	0.0%	85.7%	85.7%	14.3%	71.4%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	28.6%	0.0%
80a超90a以下	20.0%	40.0%	70.0%	30.0%	50.0%	10.0%	20.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10.0%	20.0%
90a超100a以下	12.5%	62.5%	75.0%	12.5%	50.0%	0.0%	12.5%	12.5%	25.0%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%
100a超	50.0%	55.0%	75.0%	20.0%	50.0%	10.0%	25.0%	0.0%	5.0%	5.0%	10.0%	20.0%	5.0%

問 4. あなたは直売所を持っていますか。当てはまるもの 1 つに○印をつけてください。

表 3-94 は、直売所保有状況を表している。直売所を「1. 持っている(156 件、55.7%)」または「3. 今後、持ちたい(19 件、6.8%)」と回答した割合が 60%を超える結果であった。

表 3-94 直売所保有状況

	件数	割合
1. 持っている	156	55.7%
2. 以前は持っていたが閉めた	14	5.0%
3. 今後、持ちたい	19	6.8%
4. 持っていないし、今後持つことも考えていない	85	30.4%
5. その他	6	2.1%
合計	280	100.0%

問 5. 問 4 で「直売所を持っている」と回答した方にお聞きします。あなたの家の直売所はどういう経営形態ですか。それぞれの項目について、当てはまるもの 1 つに○印をつけてください。

表 3-95 は、直売所経営形態を表している。「ア. 開店日」については、「1.年間を通して(57 件、41.0%)」が最も多く、次いで「3.不定期(45 件、32.4%)」、「2.季節を決めて(37 件、26.6%)」であった。

「イ.開店時間」については、「2.特に決めていない(72 件、56.3%)」と回答した割合が「1.決めている(56 件、43.8%)」より若干多かった。

「ウ.直売所の売手」については、「2.無人(69 件、50.4%)」と「1.有人(68 件、49.6%)」がほぼ半数ずつであった。

「エ.自動販売機」については、「2.なし(103 件、85.1%)」が「1.ある(18 件、14.9%)」を大きく上回った。

「オ.場所」は、「1.庭先(79 件、58.5%)」が最も多く、次いで「2.農地のそば(47 件、34.8%)」であった。

「カ.売れ行き」については、「1.良い(106 件、81.5%)」が「2.悪い(24 件、18.5%)」を大きく上回った。

その他、ヒアリング調査では、個人直売所では値段を自分で決められるため、売れ残りを 5~10%程度に抑えることができるなど、柔軟な対応ができる点が個人直売所の利点の 1 つとして挙げられた。

表 3-95 直売所経営形態

ア. 開店日	件数	割合
1. 年間を通して	57	41.0%
2. 季節を決めて	37	26.6%
3. 不定期	45	32.4%
合計	139	100.0%

イ. 開店時間	件数	割合
1. 決めている	56	43.8%
2. 特に決めていない	72	56.3%
合計	128	100.0%

ウ. 直売所の売手	件数	割合
1. 有人	68	49.6%
2. 無人	69	50.4%
合計	137	100.0%

エ. 自動販売機	件数	割合
1. ある	18	14.9%
2. なし	103	85.1%
合計	121	100.0%

オ. 場所	件数	割合
1. 庭先	79	58.5%
2. 農地のそば	47	34.8%
3. その他	9	6.7%
合計	135	100.0%

カ. 売れ行き	件数	割合
1. 良い	106	81.5%
2. 悪い	24	18.5%
合計	130	100.0%

### 3) 農地について

問 6. あなたが所有している農地について、あてはまる面積を記入してください。

図 3-75 は、農家 1 戸当たりの農地面積を町丁別に、市内、小平市以外の都内、都外の 3 つに分けて表している。市内の農家 1 戸当たりの農地面積では、美園町や天神町などの小平市北東部の地域が大きい。

また、小平市以外の農地面積は、花小金井や天神町、仲町、小川町などで保有農家が多かった。

図 3-75 農家 1 戸当たりの農地面積

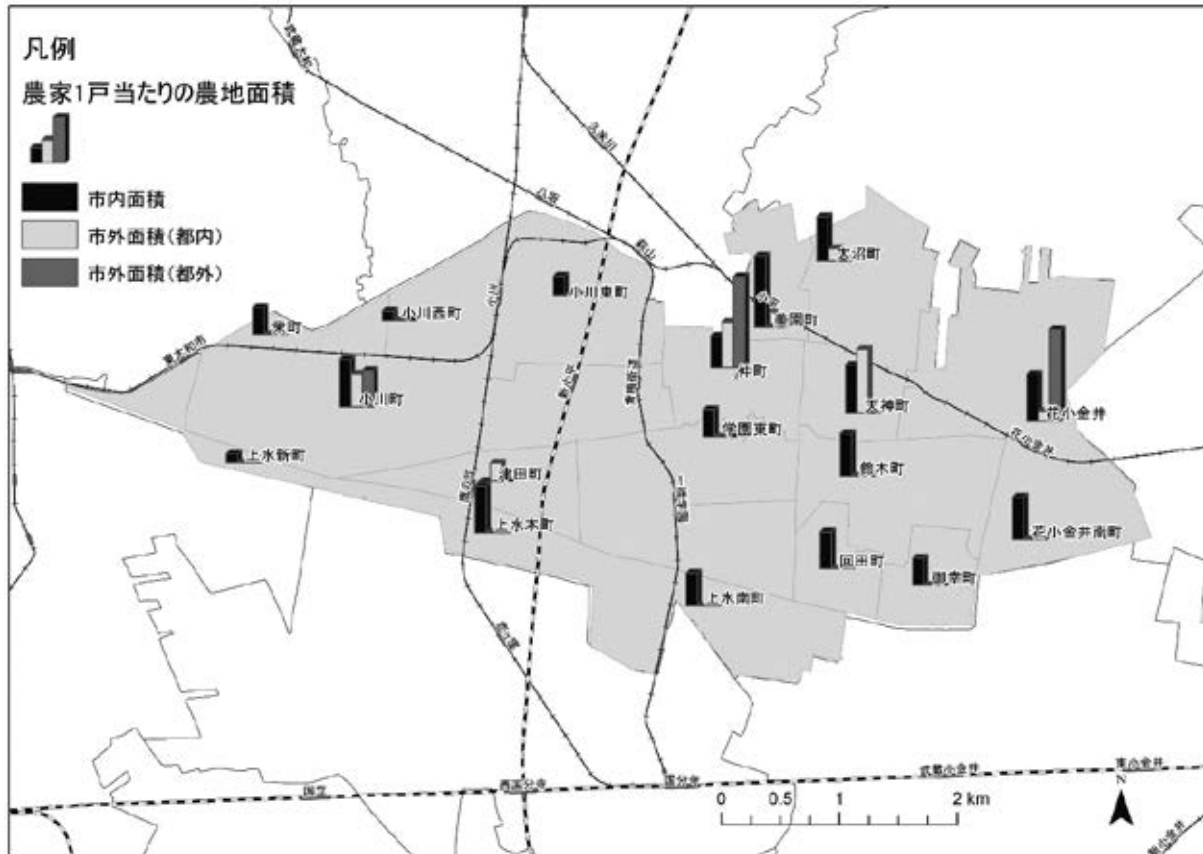




図 3-76 は、市内農地のうちの生産緑地指定農地の割合を町丁別に表している。市内の 11 の地域で生産緑地指定農地の割合が 70%を超えており、最も農地面積が大きい小川町の生産緑地指定農地の割合は 73.0%であった。

図 3-76 市内農地のうち生産緑地指定農地の割合

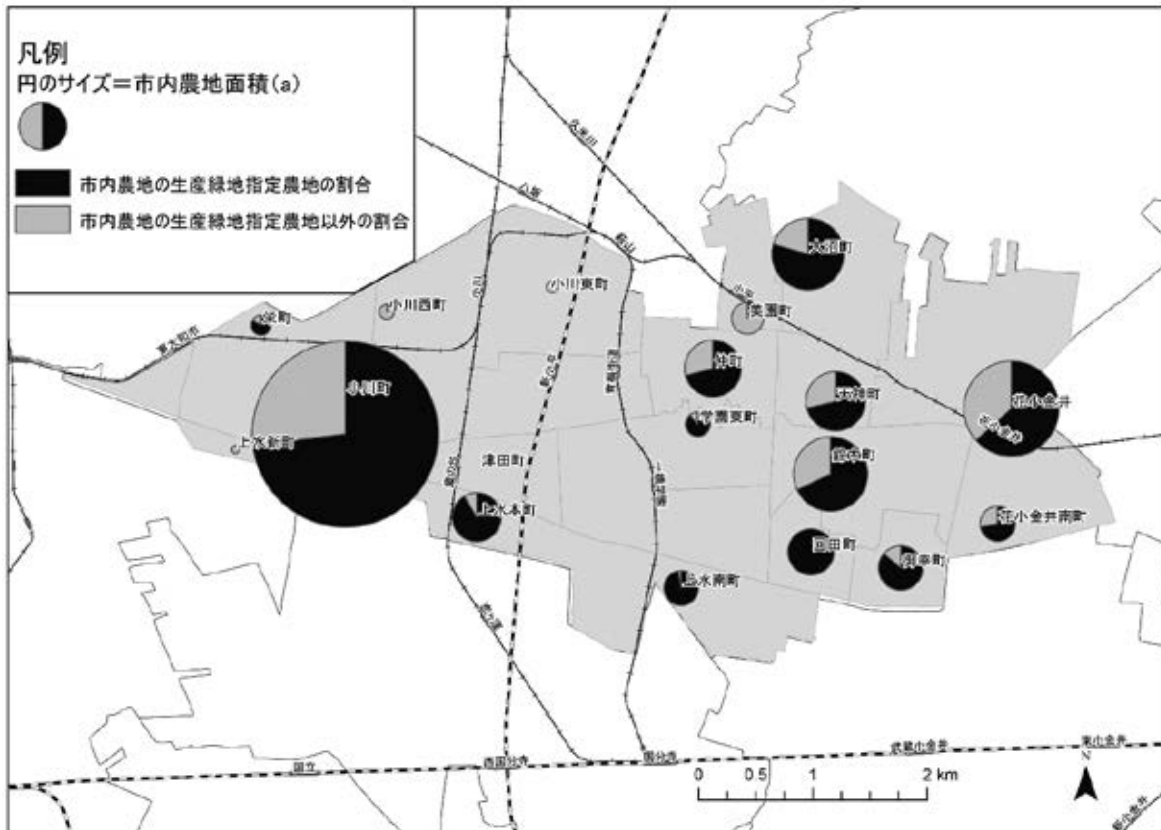




図 3-78 は、市内に所有している農地面積を表している。30a 以下の農地面積を所有する農家が約半数を占めている。最も多かったのは、「10a 超～20a 以下(45 件、17.6%)」であった。一方、「150a 超」の農地面積を所有する農家も 3 戸であった。

図 3-78 市内に所有している農地面積

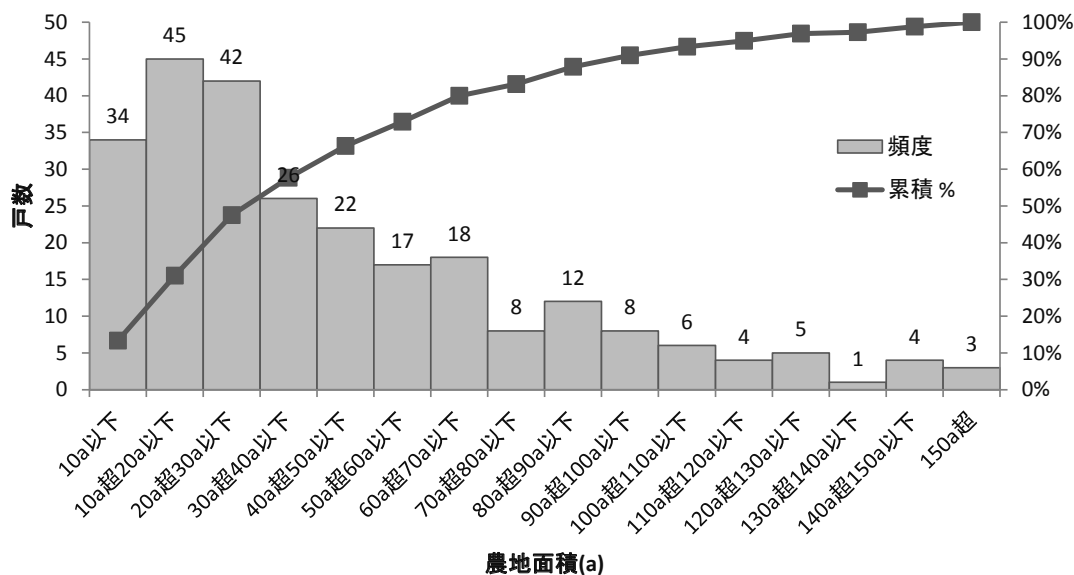
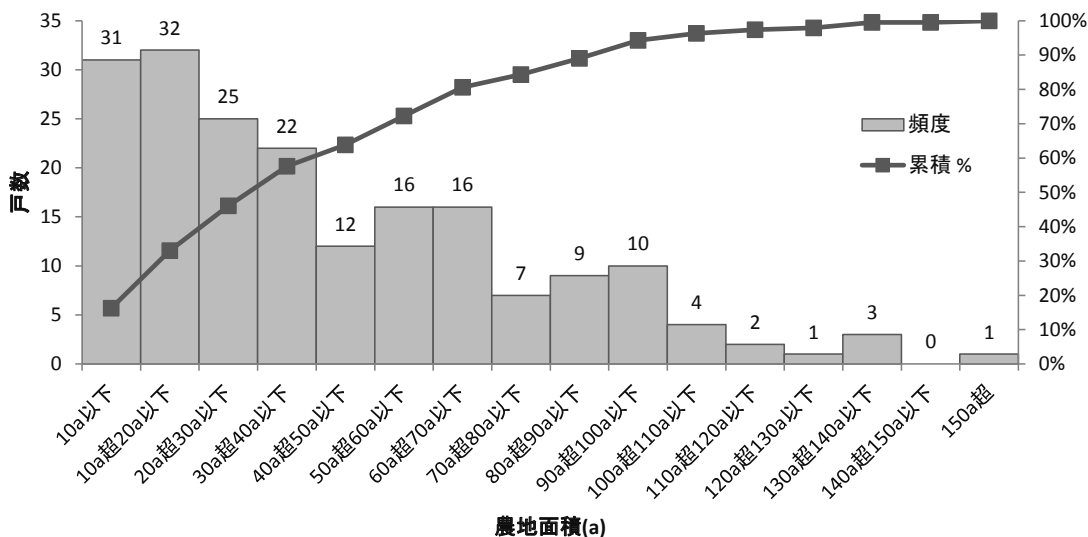


図 3-79 は、市内の生産緑地指定農地面積を表している。生産緑地指定農地面積も「10a 超～20a 以下(32 件、16.8%)」が最も多かった。

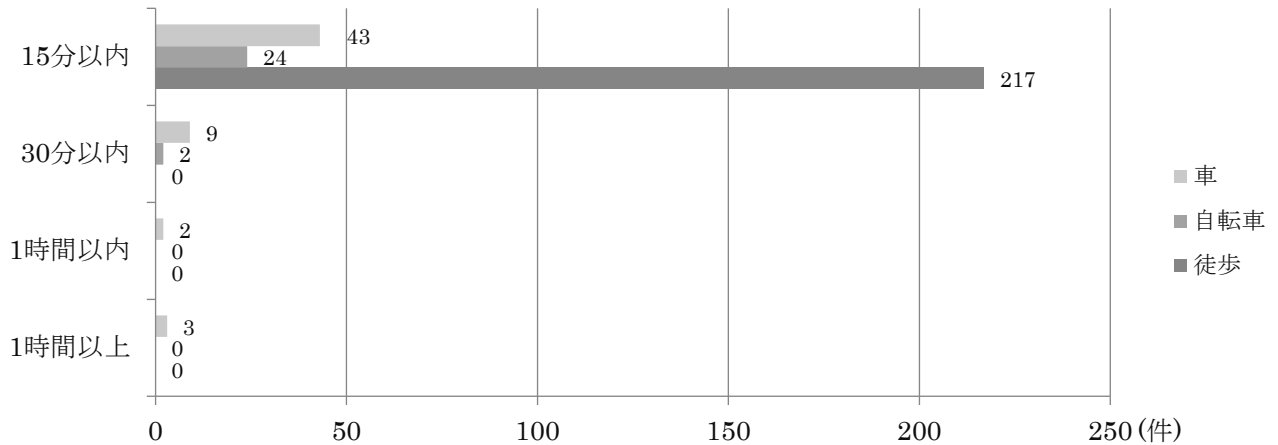
図 3-79 市内の生産緑地指定農地面積



問 7. 自宅からの距離ごとの所有している農地の筆数を記入してください。また、移動にあたって利用する方法 1 つに○印をつけてください。

図 3-80 は、自宅から農地までの移動手段別所要時間を表したものである。15 分以内の徒歩圏内に農地を保有している農家が最も多い結果であった。

図 3-80 自宅から農地までの移動手段別所要時間



問 8. 今後 10 年くらいのあなたの農地の方向性について最も近いもの 1 つに○印をつけてください。

表 3-96 は、今後の農地の方針を表している。「2. 現状を維持したい(143 件、51.6%)」が最も多く、次いで、「4. 相続等の税負担のため現状維持は困難(96 件、34.7%)」、「3. 担い手不足のため現状維持は困難(32 件、11.6%)」であった。

表 3-96 今後の農地の方針

	件数	割合
1. 農地を拡大したい	3	1.1%
2. 現状を維持したい	143	51.6%
3. 担い手不足のため現状維持は困難	32	11.6%
4. 相続等の税負担のため現状維持は困難	96	34.7%
5. 農地を貸したい	3	1.1%
6. その他	0	0.0%
合計	277	100.0%

問 9. 今後 10 年のうちに、あなたの家で耕作しきれない農地が発生する可能性はありますか。最も近いもの 1 つに○印をつけてください。

表 3-97 は、耕作しきれない農地の有無を表している。「2.ない(168 件、59.6%)」と回答した農家が「1.ある(104 件、36.9%)」と回答した農家を上回る結果であった。

表 3-97 耕作しきれない農地の有無

	件数	割合
1. ある	104	36.9%
2. ない	168	59.6%
3. その他	10	3.5%
合計	282	100.0%

問 10. 問 9 で「1. ある」と回答した方にお聞きします。市などから「農地を貸してほしい」と相談があったらどう思われますか。最も近いものに 1 つに○印をつけてください。

表 3-98 は、農地の貸与依頼があった場合の対応を表している。「1.条件次第で相談に応じる(73 件、73.0%)」と回答した割合が 70%を超える結果であった。

表 3-98 農地の貸与依頼があった場合の対応

	件数	割合
1. 条件次第で相談に応じる	73	73.0%
2. 相談に応じない	19	19.0%
3. その他	8	8.0%
合計	100	100.0%

問 11. あなたに相続が発生した場合、どのように対応できると思いますか。該当するケースについて、当てはまるもの全てに○印をつけてください。

表 3-99 は、相続発生時の対応予定を表している。「1. 生産緑地を処分して対応する(222 件、78.4%)」が最も多く、次いで「3. 農地以外の宅地(アパートや駐車場等)を処分して対応する(75 件、26.5%)」、「2. 宅地化農地を処分して対応する(65 件、23.0%)」であった。

表 3-99 相続発生時の対応予定

(有効回答数:283)

	件数	割合
1. 生産緑地を処分して対応する	222	78.4%
2. 宅地化農地を処分して対応する	65	23.0%
3. 農地以外の宅地(アパートや駐車場等)を処分して対応する	75	26.5%
4. 土地は処分せずに対応する	19	6.7%
5. その他	9	3.2%
合計	390	137.8%

#### 4) 農業の担い手について

問 12. 後継者の農業従事状況について最も近いもの 1 つに○印をつけてください。

表 3-100 及び図 3-81 は、後継者の状況について表している。「4. 現在は決まっておらず、将来も後継者になりそうな者がいない(123 件、43.2%)」が最も多く、次いで「1. 後継者は決まっておりに既に農業に従事している(57 件、20.0%)」、「3. 現在は決まっていないが、将来後継者になりそうな者がいる(53 件、18.6%)」であった。1.~3.を合わせると、後継者がいる可能性が高い農家の割合は 162 件(56.8%)であった。

表 3-100 後継者の状況について

(有効回答数:285)		
	件数	割合
1. 後継者は決まっておりに既に農業に従事している	57	20.0%
2. 後継者は決まっているが、現在は農業に従事していない	52	18.2%
3. 現在は決まっていないが、将来後継者になりそうな者がいる	53	18.6%
4. 現在は決まっておらず、将来も後継者になりそうな者がいない	123	43.2%
合計	285	100.0%

図 3-81 後継者の状況について

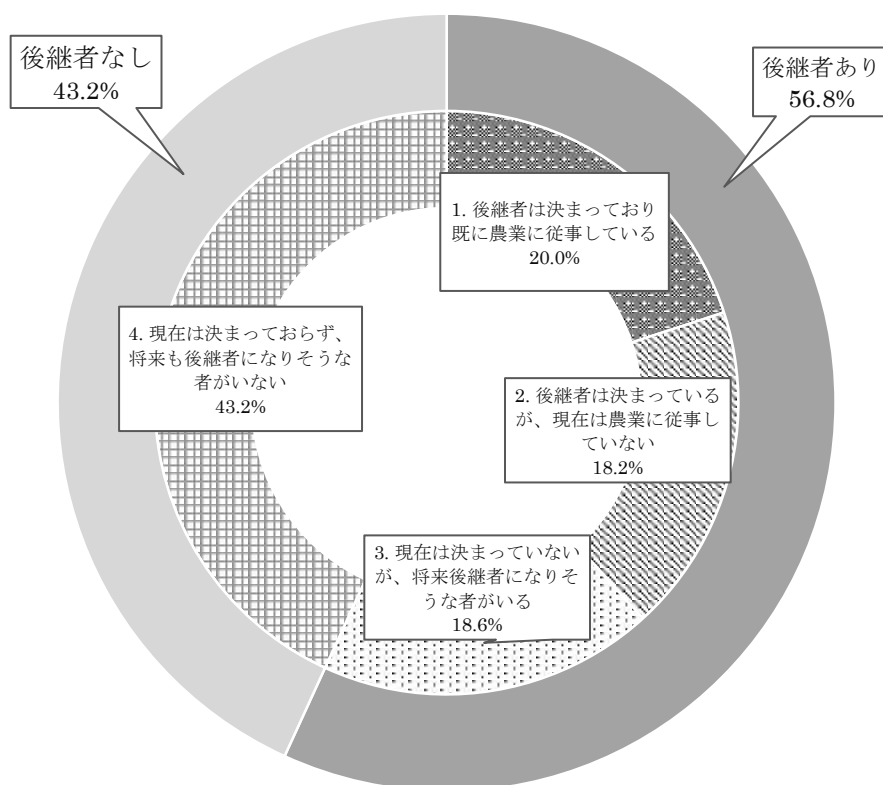


表 3-101 及び図 3-82 は後継者の状況(市内の所有農地面積別)を表している。農地面積が 50a 以下の農家では、半数超の農家が「4.現在は決まっておらず、将来も後継者になりそうな者がいない」と回答している。

一方、農地面積が 50a 超の農家では、「4.現在は決まっておらず、将来も後継者になりそうな者がいない」は4分の1に留まり、反対に「1.後継者は決まっておりに既に農業に従事している」の割合が高くなる傾向がみられた。

表 3-101 後継者の状況(市内の所有農地面積別)

	1. 後継者は決まっており既に農業に従事している		2. 後継者は決まっているが、現在は農業に従事していない		3. 現在は決まっていないが、将来後継者になりそうな者がいる		4. 現在は決まっておらず、将来も後継者になりそうな者がいない		有効回答数	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
10a以下	3	9.1%	6	18.2%	7	21.2%	17	51.5%	33	100.0%
10a超20a以下	3	7.1%	7	16.7%	9	21.4%	23	54.8%	42	100.0%
20a超30a以下	4	9.8%	9	22.0%	7	17.1%	21	51.2%	41	100.0%
30a超40a以下	6	23.1%	5	19.2%	3	11.5%	12	46.2%	26	100.0%
40a超50a以下	4	18.2%	2	9.1%	3	13.6%	13	59.1%	22	100.0%
50a超60a以下	4	23.5%	2	11.8%	5	29.4%	6	35.3%	17	100.0%
60a超70a以下	10	55.6%	3	16.7%	2	11.1%	3	16.7%	18	100.0%
70a超80a以下	5	62.5%	1	12.5%	1	12.5%	1	12.5%	8	100.0%
80a超90a以下	1	8.3%	4	33.3%	4	33.3%	3	25.0%	12	100.0%
90a超100a以下	4	50.0%	2	25.0%	0	0.0%	2	25.0%	8	100.0%
100a超	7	31.8%	2	9.1%	6	27.3%	7	31.8%	22	100.0%

図 3-82 後継者の状況(市内の所有農地面積別)

	1. 後継者は決まっており既に農業に従事している	2. 後継者は決まっているが、現在は農業に従事していない	3. 現在は決まっていないが、将来後継者になりそうな者がいる	4. 現在は決まっておらず、将来も後継者になりそうな者がいない
10a以下	9.1%	18.2%	21.2%	51.5%
10a超20a以下	7.1%	16.7%	21.4%	54.8%
20a超30a以下	9.8%	22.0%	17.1%	51.2%
30a超40a以下	23.1%	19.2%	11.5%	46.2%
40a超50a以下	18.2%	9.1%	13.6%	59.1%
50a超60a以下	23.5%	11.8%	29.4%	35.3%
60a超70a以下	55.6%	16.7%	11.1%	16.7%
70a超80a以下	62.5%	12.5%	12.5%	12.5%
80a超90a以下	8.3%	33.3%	33.3%	25.0%
90a超100a以下	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%
100a超	31.8%	9.1%	27.3%	31.8%

問 13. 農業後継者を育てるために必要と思われることは何ですか。2 つまで○印をつけてください。

表 3-102 は、後継者の育成について必要なことを表している。「8.税制の改革(122 件、47.1%)」が最も多く、次いで「5.農業所得の向上(105 件、40.5%)」、「4. 配偶者問題(59 件、22.8%)」であった。

表 3-102 後継者の育成について必要なこと

(有効回答数:259)

	件数	割合
1. 後継者による組織づくり	26	10.0%
2. 農業に関する情報の提供	27	10.4%
3. 農業技術指導	40	15.4%
4. 配偶者問題	59	22.8%
5. 農業所得の向上	105	40.5%
6-1. イメージアップ	12	4.6%
6-2. 経営の改革	18	6.9%
7. 農業経営指導	27	10.4%
8. 税制の改革	122	47.1%
9. 販路の拡大	22	8.5%
10. その他	13	5.0%
合計	471	181.9%

問 14. あなたの家では女性が、どのような役割を担っていますか。当てはまるもの全てに○印をつけてください。

表 3-103 は、農業における女性の役割を表している。「3. 労働力の補助的な担い手(118 件、43.1%)」が最も多く、次いで「9. 農業に関わっていない(家事、他の仕事など)(73 件、26.6%)」、「6. 販売の中心となっている(68 件、24.8%)」であった。

表 3-103 農業における女性の役割

(有効回答数:274)

	件数	割合
1. 農業経営の中心となっている	37	13.5%
2. 労働力の中心的な担い手	55	20.1%
3. 労働力の補助的な担い手	118	43.1%
4. ある部門の(作物栽培)について責任を持っている	17	6.2%
5. ある部門(加工品)について責任をもっている	6	2.2%
6. 販売の中心となっている	68	24.8%
7. 簿記や帳簿の整理を担当	42	15.3%
8. 直売の販売を担当	54	19.7%
9. 農業に関わっていない(家事、他の仕事など)	73	26.6%
10. その他	9	3.3%
合計	479	174.8%



問 15. 今後の農業の担い手や労働力について、当てはまるものに2つまで○印をつけてください。

表 3-104 は、農業の今後の担い手を表している。「2. 自分たちでがんばり、その後は後継者にまかせる(117件、43.0%)」が最も多く、次いで「8. わからない(69件、25.4%)」、「7. 自分たちで頑張り、その後は農業をやめる(68件、25.0%)」であった。

表 3-104 農業の今後の担い手

(有効回答数:272)		
	件数	割合
1. 後継者が中心となって農業をやっていく	56	20.6%
2. 自分たちでがんばり、その後は後継者にまかせる	117	43.0%
3. パートやヘルパーを雇う	18	6.6%
4. 機械化による省力化・労働力に見合った生産方法を考える	63	23.2%
5. ボランティアの協力を得たい	31	11.4%
6. 他人や企業に委託する	9	3.3%
7. 自分たちで頑張り、その後は農業をやめる	68	25.0%
8. わからない	69	25.4%
合計	431	158.5%

問 16. 市民による援農(農作業の手伝い)について当てはまるものすべてに○印をつけてください。

表 3-105 は、市民による援農に関する意向を表している。「6. 特に必要としていない(118件、44.9%)」が最も多いものの、その残りである半数以上の農家が市民による援農に関心を示していた。なお、援農の内容に関する選択肢では、「2. 草取りなど補助的な作業なら手伝ってほしい(112件、42.6%)」が最も多く、次いで「1. 経験があり、熱心な市民なら農作業を手伝ってほしい(66件、25.1%)」であった。

表 3-105 市民による援農に関する意向

(有効回答数:263)		
	件数	割合
1. 経験があり、熱心な市民なら農作業を手伝ってほしい	66	25.1%
2. 草取りなど補助的な作業なら手伝ってほしい	112	42.6%
3. 直売所の販売などを手伝ってほしい	15	5.7%
4. 農作業を通じて、農業への理解にも繋がるので、積極的に対応したい	44	16.7%
5. 市民との交流にもなるので、積極的に対応したい	23	8.7%
6. 特に必要としていない	118	44.9%
合計	378	143.7%

## 5) 農業経営について

問 17. あなたが農業を行っていく上で困っていることはありますか。最も当てはまるもの1つに◎印をつけ、次に当てはまるものに2つまで○印をつけてください。

表 3-106 は、農業経営の課題を表している。「最も当てはまる」ものとして、「9. 相続税等の税の負担が重い(55 件、20.0%)」が最も多く、次いで「6. 高齢のため体力的に厳しくなってきた(21 件、7.6%)」、「5. 後継者や担い手がない(18 件、6.5%)」であった。

「次に当てはまる」ものとして、「9. 相続税等の税の負担が重い(82 件、29.8%)」が最も多く、次いで「7. 農業収益が労働の割には少ない(72 件、26.2%)」、「6. 高齢のため体力的に厳しくなってきた(65 件、23.6%)」であった。

表 3-106 農業経営の課題

(有効回答数:275)

	最も当てはまる(◎)		次に当てはまる(○)	
	件数	割合	件数	割合
1. 宅地化が進み通風や日照、水はけが悪化している	13	4.7%	43	15.6%
2. 宅地化が進み農薬散布が十分にできない	13	4.7%	41	14.9%
3. 空き缶やゴミなどの不法投棄が多い	10	3.6%	46	16.7%
4. 鳥獣による被害が多い	4	1.5%	42	15.3%
5. 後継者や担い手がない	18	6.5%	29	10.5%
6. 高齢のため体力的に厳しくなってきた	21	7.6%	65	23.6%
7. 農業収益が労働の割には少ない	13	4.7%	72	26.2%
8. 農産物の販売先がない	3	1.1%	2	0.7%
9. 相続税等の税の負担が重い	55	20.0%	82	29.8%
10. 堆肥等の臭いで苦情を言われる	0	0.0%	6	2.2%
11. 野菜や剪定枝の残滓の処理がむずかしい	6	2.2%	47	17.1%
12. その他	3	1.1%	8	2.9%
合計	159	57.8%	483	175.6%

問 18. あなたは今後の経営の中心となる農畜産物としてどのようなものをお考えですか。1 つに○印をつけてください。

表 3-107 は、今後の農業経営の中心となる農畜産物を表している。「1. 露地野菜(139 件、54.3%)」が最も多く、次いで「5. 果樹(ぶどう、なし、ブルーベリー、柿など)(43 件、16.8%)」であった。

表 3-107 今後の農業経営の中心となる農畜産物

	件数	割合
1. 露地野菜	139	54.3%
2. 施設野菜	18	7.0%
3. 植木・造園	18	7.0%
4. 花卉	9	3.5%
5. 果樹(ぶどう、なし、ブルーベリー、柿など)	43	16.8%
6. 果樹(うめ、くり)	13	5.1%
7. その他	16	6.3%
合計	256	100.0%

問 19. あなたは今後の農業経営の内容について、どのようにお考えですか。当てはまるもの全てに○印をつけてください。

表 3-108 は、今後の農業経営の方針を表している。「4. 省力型の農業に取り組む(94 件、37.5%)」が最も多く、次いで「9. 少量多品目の農業を進める(68 件、27.1%)」、「1. 施設活用による高収益を目指す(55 件、21.9%)」、「5. 土づくりを重視した農業に取り組む(55 件、21.9%)」、「3. 有機、減農薬、無農薬栽培に取り組む(54 件、21.5%)」であった。

表 3-108 今後の農業経営の方針

(有効回答数:251)

	件数	割合
1. 施設活用による高収益を目指す	55	21.9%
2. 新技術導入による高収益を目指す	44	17.5%
3. 有機、減農薬、無農薬栽培に取り組む	54	21.5%
4. 省力型の農業に取り組む	94	37.5%
5. 土づくりを重視した農業に取り組む	55	21.9%
6. 市民農園などの市民的利用を図る	27	10.8%
7. 農業体験農園などの市民的利用を図る	6	2.4%
8. 観光農園の導入を図る	9	3.6%
9. 少量多品目の農業を進める	68	27.1%
10. 多量少品目の農業を進める	31	12.4%
11. 農作業の委託や市民の支援を募る	21	8.4%
12. 新たな作目を導入し高収益をめざす	38	15.1%
13. 商品開発や農産物加工によって特産品をつくる(農業の6次産業化を含む)	9	3.6%
14. その他	17	6.8%
合計	528	210.4%

問 20. 現在の世帯収入のなかで当てはまるもの全てに○印をつけてください。またその中で、最も収入が多いもの1つに◎印をつけてください。

表 3-109 は、収入項目別の収入の有無を表している。「最も収入が多い」ものとして、「2. 不動産収入(148 件、52.3%)」が最も多く、次いで「1. 農業収入(15 件、5.3%)」、「3. 給与収入(11 件、3.9%)」であった。

「当てはまる」ものとして、「2. 不動産収入(251 件、88.7%)」が最も多く、次いで「1. 農業収入(153 件、54.1%)」、「4. 年金収入(108 件、38.2%)」であった。

表 3-109 収入項目別の収入の有無

(有効回答数:283)

	最も収入が多い(◎)		当てはまる(◎+○)	
	件数	割合	件数	割合
1. 農業収入	15	5.3%	153	54.1%
2. 不動産収入	148	52.3%	251	88.7%
3. 給与収入	11	3.9%	45	15.9%
4. 年金収入	5	1.8%	108	38.2%
5. 市民農園、体験農園、学童農園などの農業指導による収入	1	0.4%	5	1.8%
6. その他	1	0.4%	4	1.4%
合計	181	64.0%	566	200.0%

問 21. あなたの家の年間の農業による売上と不動産収入について【農業による売上】の1~9【不動産収入】の1~8の選択肢のなかからそれぞれ1つずつに○印をつけてください。

表 3-110 は、現在の農業による売上と不動産収入の状況を表している。農業による売上では「5. 100~300 万円未満(65 件、24.5%)」が最も多く、次いで「3. 50 万円未満(43 件、16.2%)」、「2. 販売しているが赤字(42 件、15.8%)」であった。不動産収入では、「7. 1,000~3,000 万円未満(79 件、31.1%)」が最も多く、次いで「6. 500~1,000 万円未満(66 件、26.0%)」、「5. 300~500 万円未満(34 件、13.4%)」、「8. 3,000 万円以上(34 件、13.4%)」であった。

表 3-110 現在の農業による売上と不動産収入の状況

農業売上	件数	割合	不動産収入	件数	割合
1. なし(自家用のみ)	24	9.1%	1. なし	13	5.1%
2. 販売しているが赤字	42	15.8%	2. 50万円未満	4	1.6%
3. 50万円未満	43	16.2%	3. 50~100万円未満	2	0.8%
4. 50~100万円未満	41	15.5%	4. 100~300万円未満	22	8.7%
5. 100~300万円未満	65	24.5%	5. 300~500万円未満	34	13.4%
6. 300~500万円未満	13	4.9%	6. 500~1,000万円未満	66	26.0%
7. 500~1,000万円未満	27	10.2%	7. 1,000~3,000万円未満	79	31.1%
8. 1,000~3,000万円未満	9	3.4%	8. 3,000万円以上	34	13.4%
9. 3,000万円以上	1	0.4%	合計	254	100.0%
合計	265	100.0%			

問 22. 今後の農業による売上の目標額について、1 つに○印をつけてください。

表 3-111 は、今後の農業による売上の目標額を表している。「4. 100～300 万円未満(71 件、26.4%)」が最も多く、次いで「2. 50 万円未満(45 件、16.7%)」、「3. 50～100 万円未満(40 件、14.9%)」であった。

表 3-111 今後の農業による売上の目標額

	件数	割合
1. 自家用のみ	33	12.3%
2. 50万円未満	45	16.7%
3. 50～100万円未満	40	14.9%
4. 100～300万円未満	71	26.4%
5. 300～500万円未満	31	11.5%
6. 500～1,000万円未満	25	9.3%
7. 1,000～3,000万円未満	22	8.2%
8. 3,000万円以上	2	0.7%
合計	269	100.0%

表 3-112 及び図 3-83 は農家の現在の農業売上と今後の売上目標のクロス集計を行った結果を表している。現在の売上のどの階層においても、現在の農業売上以上の売上目標を挙げる割合が高かった。

表 3-112 現在の農業売上と今後の売上目標

	今後の売上目標								有効回答数
	1. 自家用のみ	2. 50万円未満	3. 50～100万円未満	4. 100～300万円未満	5. 300～500万円未満	6. 500～1,000万円未満	7. 1,000～3,000万円未満	8. 3,000万円以上	
現在の農業売上	16	6	0	1	0	0	0	0	23
1. なし(自家用のみ)	8	19	6	4	1	0	0	0	38
2. 販売しているが赤字	2	18	18	4	1	0	0	0	43
3. 50万円未満	1	1	12	27	0	0	0	0	41
4. 50～100万円未満	0	0	3	35	21	3	2	0	64
5. 100～300万円未満	0	0	0	0	7	6	0	0	13
6. 300～500万円未満	0	0	0	0	0	15	12	0	27
7. 500～1,000万円未満	0	0	0	0	0	0	8	1	9
8. 1,000～3,000万円未満	0	0	0	0	0	0	0	1	1
9. 3,000万円以上	0	0	0	0	0	0	0	1	1

図 3-83 現在の農業売上と今後の売上目標

	今後の売上目標							
	1. 自家用のみ	2. 50万円未満	3. 50～100万円未満	4. 100～300万円未満	5. 300～500万円未満	6. 500～1,000万円未満	7. 1,000～3,000万円未満	8. 3,000万円以上
現在の農業売上	69.6%	26.1%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
1. なし(自家用のみ)	21.1%	50.0%	15.8%	10.5%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%
2. 販売しているが赤字	4.7%	41.9%	41.9%	9.3%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
3. 50万円未満	2.4%	2.4%	29.3%	65.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4. 50～100万円未満	0.0%	0.0%	4.7%	54.7%	32.8%	4.7%	3.1%	0.0%
5. 100～300万円未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	53.8%	46.2%	0.0%	0.0%
6. 300～500万円未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	55.6%	44.4%	0.0%
7. 500～1,000万円未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	88.9%	11.1%
8. 1,000～3,000万円未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
9. 3,000万円以上								

問 23. あなたが農業経営で実行していることは何ですか。【現在】と【今後】のそれぞれ 1～8 の選択肢のなかから当てはまるもの全てに○印をつけてください。

表 3-113 は、農業経営で現在実行していること・今後実行したいことを表している。現在実行していることでは、「9. 特にない(138 件、51.7%)」が最も多く、次いで「6. 一年間の経営目標をたてている(44 件、16.5%)」、「2. 休日を定めている(40 件、15.0%)」であった。また、今後実行したいことでも、同様の傾向であった。

表 3-113 農業経営で現在実行していること・今後実行したいこと

(有効回答数:267)			(有効回答数:251)		
現在実行していること	件数	割合	今後実行したいこと	件数	割合
1. 労働時間を定めている	37	13.9%	1. 労働時間を定めたい	41	16.3%
2. 休日を定めている	40	15.0%	2. 休日を定めたい	58	23.1%
3. 従業員の給与を定めている	30	11.2%	3. 従業員の給与を定めたい	12	4.8%
4. 後継者等と作業を分担している	25	9.4%	4. 後継者等と作業を分担したい	25	10.0%
5. 後継者等に、ある部門の責任を持たせている	21	7.9%	5. 後継者等に、ある部門の責任を持たせたい	30	12.0%
6. 一年間の経営目標をたてている	44	16.5%	6. 一年間の経営目標をたてたい	47	18.7%
7. パソコン・インターネットの活用	26	9.7%	7. パソコン・インターネットを活用したい	38	15.1%
8. 女性の活躍の場を設けている	11	4.1%	8. 女性の活躍の場を設けたい	11	4.4%
9. 特にない	138	51.7%	9. 特にない	115	45.8%
10. その他	6	2.2%	10. その他	8	3.2%
合計	378	141.6%	合計	385	153.4%

問 24. 認定農業者制度<sup>16</sup>についてお聞きします。ご自身の状況に最も近いもの 1 つに○印をつけてください。

表 3-114 は、認定農業者制度について表している。「3. 知っているが認定は受けない(118 件、44.2%)」が最も多かった。制度について認知している割合は、選択肢 1.～4.を合わせて 204 件(76.4%)であった。一方、「1. 認定を受けている(57 件、21.3%)」は、全体の 5 分の 1 程度であった。

表 3-114 認定農業者制度について

	件数	割合
1. 認定を受けている	57	21.3%
2. 知っており認定を受けたい	7	2.6%
3. 知っているが認定は受けない	118	44.2%
4. 興味はある	22	8.2%
5. 知らない	54	20.2%
6. その他	9	3.4%
合計	267	100.0%

<sup>16</sup> 農業者が、自ら作成する農業経営改善計画(5年後の経営目標)を市町村が認定し、その計画達成に向けて融資などさまざまな支援や措置を講ずる制度。

問 25. これからの都市農業は地産地消(地域で生産された農産物を地域で消費する)が大切になると考えられます。地産地消に関する以下の内容について、どのようにお考えですか。項目ごとにそれぞれ1つずつに○印をつけてください。

表 3-115 は、地産地消の取り組みを表している。「1. やっている」については「個人直売所(160 件、59.5%)」が最も多く、次いで「JA 直売所(67 件、24.9%)」、「学校給食(58 件、21.6%)」であった。一方で、「農業体験(9 件、3.3%)」、「飲食店(9 件、3.3%)」、「市民農園(0 件、0.0%)」、「観光農園(9 件、3.3%)」の取り組みは少ない。

「2. やってみたい」においては、「農産物加工(40 件、14.9%)」が最も高く、次いで「JA 直売所(32 件、11.9%)」であった。

表 3-115 地産地消の取組みについて

(有効回答数:269)

	農業体験		農産物加工		飲食店		学校給食		飲食店への供給	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. やっている	9	3.3%	16	5.9%	9	3.3%	58	21.6%	26	9.7%
2. やってみたい	15	5.6%	40	14.9%	16	5.9%	24	8.9%	27	10.0%
3. 関心がない	157	58.4%	133	49.4%	178	66.2%	108	40.1%	124	46.1%
4. わからない	66	24.5%	51	19.0%	40	14.9%	58	21.6%	62	23.0%
合計	247	91.8%	240	89.2%	243	90.3%	248	92.2%	239	88.8%

	個人直売所		JA直売所		市民農園		学童農園		観光農園	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. やっている	160	59.5%	67	24.9%	0	0.0%	16	5.9%	9	3.3%
2. やってみたい	27	10.0%	32	11.9%	17	6.3%	9	3.3%	13	4.8%
3. 関心がない	39	14.5%	91	33.8%	159	59.1%	151	56.1%	157	58.4%
4. わからない	35	13.0%	59	21.9%	64	23.8%	62	23.0%	62	23.0%
合計	261	97.0%	249	92.6%	240	89.2%	238	88.5%	241	89.6%

問 26. あなたは農作業を行う上で、その手法を主にどのようにして学んでいますか。最も当てはまるもの1つに◎印を、次に当てはまるものに2つまで○印をつけてください。

表 3-116 は、農作業を学ぶ方法を表している。「最も当てはまる」ものとして、「1. 親や親族などから学ぶ(52件、19.3%)」が最も多く、次いで「3. 農家の仲間や業種別団体から情報を得る(28件、10.4%)」、「6. 書籍などを参考に独学で学ぶ(28件、10.4%)」が並んだ。

「次に当てはまる」ものとして、「2. 近隣の農家から教わる(79件、29.3%)」が最も多く、次いで「3. 農家の仲間や業種別団体から情報を得る(74件、27.4%)」、「4. 普及センターやJAなどから教わる(59件、21.9%)」であった。

表 3-116 農作業を学ぶ方法

(有効回答数:270)

	最も当てはまる(◎)		次に当てはまる(○)	
	件数	割合	件数	割合
1. 親や親族などから学ぶ	52	19.3%	52	19.3%
2. 近隣の農家から教わる	20	7.4%	79	29.3%
3. 農家の仲間や業種別団体から情報を得る	28	10.4%	74	27.4%
4. 普及センターやJAなどから教わる	7	2.6%	59	21.9%
5. 勉強会などに参加する	0	0.0%	20	7.4%
6. 書籍などを参考に独学で学ぶ	28	10.4%	46	17.0%
7. インターネットから情報を得る	12	4.4%	48	17.8%
8. 特に誰かに教わったりしない	10	3.7%	38	14.1%
9. その他	3	1.1%	8	3.0%
合計	160	59.3%	424	157.0%



問 27. あなたは農家同士との交流がどの程度ありますか。最も当てはまるものを選び 1 つに○印をつけてください。

表 3-117 は、現在の農家同士の交流の状況を表している。「1. とても多い(24 件、8.9%)」と「2. 多い(111 件、41.3%)」を合わせると半数超の農家は交流が多いと感じていることがわかった。

一方、「3. 少ない(109 件、40.5%)」と「4. 全くない(12 件、4.5%)」を合わせると 45.0%となっており、農家同士の交流に関する意識は拮抗していることが示された。

表 3-117 現在の農家同士の交流の状況

	件数	割合
1. とても多い	24	8.9%
2. 多い	111	41.3%
3. 少ない	109	40.5%
4. 全くない	12	4.5%
5. わからない	13	4.8%
合計	269	100.0%

問 28. あなたは農家同士との交流を今後どのようにしていきたいですか。最も当てはまるものを 1 つに○印をつけてください。

表 3-118 は、今後の農家同士の交流についてを表している。「3. 現状維持で良い(182 件、67.2%)」が最も多く、次いで「2. 増やしていきたい(51 件、18.8%)」であった。また、「4. 無くしていきたい(0 件、0.0%)」、「5. 減らしていきたい(6 件、2.2%)」という回答が少なかったことから、今後の農家同士の交流は、現状維持あるいは増やしていきたい農家が多い結果であった。

表 3-118 今後の農家同士の交流について

	件数	割合
1. 積極的に増やしていきたい	12	4.4%
2. 増やしていきたい	51	18.8%
3. 現状維持で良い	182	67.2%
4. 無くしていきたい	0	0.0%
5. 減らしていきたい	6	2.2%
6. わからない	20	7.4%
合計	271	100.0%

## 6) 有機栽培、減農薬栽培について

問 29. あなたは有機栽培<sup>17</sup>や減農薬栽培<sup>18</sup>に関心がありますか。最も当てはまるものを1つに○印をつけてください。

表 3-119 は、有機栽培、減農薬栽培の実施状況を表している。「1. すでに有機栽培を行っている(22 件、8.8%)」、「2. すでに減農薬栽培を行っている(36 件、14.4%)」、「3. 減化学肥料を利用している(34 件、13.6%)」を合わせて 36.8%の農家が行っていた。また、「5. 関心はあるがまだ行っていない(90 件、36.0%)」という回答も全体の 3 分の 1 程度あった。

表 3-119 有機栽培、減農薬栽培の実施状況

	件数	割合
1. すでに有機栽培を行っている	22	8.8%
2. すでに減農薬栽培を行っている	36	14.4%
3. 減化学肥料を利用している	34	13.6%
4. 以前はやっていたが今はやめている	7	2.8%
5. 関心はあるがまだ行っていない	90	36.0%
6. 関心がない	54	21.6%
7. その他	7	2.8%
合計	250	100.0%

<sup>17</sup> 農産物の生産過程等において、化学合成農薬、化学肥料および化学合成土壌改良資材を使用しないで3年以上経過し、堆肥による土づくりを行った圃場での栽培方法

<sup>18</sup> 農薬で慣行的に行われている使用回数のおおむね5割以下の栽培方法

問 30. あなたが有機栽培や減農薬栽培に取り組むうえでどのような課題がありますか。最も当てはまるもの1つに◎印を、次に当てはまるものに2つまで○印をつけてください。

表 3-120 は、有機栽培、減農薬栽培の課題を表している。「最も当てはまる」ものとして、「3. 手間や費用がかかる(52 件、23.4%)」が最も多く、次いで「5. 虫食いなどで売れないなど心配である(31 件、14.0%)」、「7. 技術・知識が十分でない(22 件、9.9%)」であった。

「次に当てはまる」ものでは、「5. 虫食いなどで売れないなど心配である(76 件、34.2%)」が最も多く、次いで「7. 技術・知識が十分でない(65 件、29.3%)」、「3. 手間や費用がかかる(60 件、27.0%)」であった。

表 3-120 有機栽培、減農薬栽培の課題

(有効回答数:222)

	最も当てはまる(◎)		次に当てはまる(○)	
	件数	割合	件数	割合
1. 有機物が手に入らない・入りにくい	11	5.0%	18	8.1%
2. 有機栽培用の種苗が手に入らない・入りにくい	2	0.9%	8	3.6%
3. 手間や費用がかかる	52	23.4%	60	27.0%
4. 収量が低くなる	1	0.5%	41	18.5%
5. 虫食いなどで売れないなど心配である	31	14.0%	76	34.2%
6. 周辺農家と一緒に行わないと難しい	3	1.4%	28	12.6%
7. 技術・知識が十分でない	22	9.9%	65	29.3%
8. その他	2	0.9%	11	5.0%
合計	124	55.9%	307	138.3%

問 31. あなたが有機栽培や減農薬栽培を推進する場合、必要とされるものは何ですか。最も当てはまるもの1つに◎印を、次に当てはまるものに2つまで○印をつけてください。

表 3-121 は、有機栽培、減農薬栽培の推進に必要なものを表している。「最も当てはまる」ものとして、「4. 農業技術指導員等による栽培指導・情報の提供(36 件、16.7%)」が最も多く、次いで、「2. 有機質肥料購入に関する補助(34 件、15.7%)」、「1. 生産施設(ハウス、堆肥置場等)設置に関する補助(29 件、13.4%)」であった。

「次に当てはまる」ものとして、「2. 有機質肥料購入に関する補助(63 件、29.2%)」が最も多く、次いで、「4. 農業技術指導員等による栽培指導・情報の提供(50 件、23.1%)」、「7. 有機・減農薬農産物への消費者の理解(49 件、22.7%)」であった。

表 3-121 有機栽培、減農薬栽培の推進に必要なもの

(有効回答数:216)

	最も当てはまる(◎)		次に当てはまる(○)	
	件数	割合	件数	割合
1. 生産施設(ハウス、堆肥置場等)設置に関する補助	29	13.4%	37	17.1%
2. 有機質肥料購入に関する補助	34	15.7%	63	29.2%
3. 生産資材(マルチ、フェロモン剤等)購入に関する補助	13	6.0%	44	20.4%
4. 農業技術指導員等による栽培指導・情報の提供	36	16.7%	50	23.1%
5. グループづくり	1	0.5%	8	3.7%
6. 安定した販路の確保	11	5.1%	41	19.0%
7. 有機・減農薬農産物への消費者の理解	8	3.7%	49	22.7%
8. 種苗	2	0.9%	5	2.3%
9. 認証制度	0	0.0%	4	1.9%
10. その他	3	1.4%	16	7.4%
合計	137	63.4%	317	146.8%

## 7) 地域住民との交流とこれからの都市農業について

問 32. あなたが地域住民とのふれあいについて望むことをお聞きします。当てはまるもの全てに○印をつけてください。

表 3-122 は、望んでいる地域住民との交流方法を表している。「1. 農産物の販売を通じた交流(154 件、59.9%)」が最も多く、次いで「4. 地域の行事等による交流(78 件、30.4%)」、「10. 関心がない(58 件、22.6%)」であった。

また、農家へのヒアリング調査からは、観光・体験農園、直売所を営んでいる農家などは、地域住民との交流に比較的積極的な意見があったが、市場出荷や契約栽培を主とする農家などは観光・体験農園に慎重な声も聞かれた。

表 3-122 望んでいる地域住民との交流方法

(有効回答数:257)

	件数	割合
1. 農産物の販売を通じた交流	154	59.9%
2. 農産物の調理方法の講習等による交流	15	5.8%
3. 農作業への協力、農業体験による交流	47	18.3%
4. 地域の行事等による交流	78	30.4%
5. 学童農園など学校を通じた交流	11	4.3%
6. 農業体験農園の設置による交流	10	3.9%
7. 観光農園の設置による交流	17	6.6%
8. 農地周辺の緑化や花の植栽などによる交流	23	8.9%
9. まちづくりについての懇談会による交流	12	4.7%
10. 関心がない	58	22.6%
11. その他	7	2.7%
合計	432	168.1%

問 33. 都市農業や農地は農産物の生産だけでなく、都市生活の中で様々な役割を果たしていますが、どのような役割が大切だと思いますか。最も当てはまるもの 1 つに◎印を、次に当てはまるものに 2 つまで○印をつけてください。

表 3-123 は、大切だと思う都市農業の役割を表している。「最も当てはまる」ものとして、「4. 環境の保持や防災空間(53 件、20.7%)」が最も多く、次いで「1. 雨水の保水や自然、生態系の保全の場(37 件、14.5%)」、「2. うるおいある景観(26 件、10.2%)」であった。

「次に当てはまる」ものとして、「4. 環境の保持や防災空間 92 件、35.9%」が最も多く、次いで「7. 季節の変化を感じさせる役割(80 件、31.3%)」、「1. 雨水の保水や自然、生態系の保全の場(64 件、25.0%)」であった。

表 3-123 大切だと思う都市農業の役割

(有効回答数:256)

	最も当てはまる(◎)		次に当てはまる(○)	
	件数	割合	件数	割合
1. 雨水の保水や自然、生態系の保全の場	37	14.5%	64	25.0%
2. うるおいある景観	26	10.2%	62	24.2%
3. 過密化の解消やオープンスペース	17	6.6%	28	10.9%
4. 環境の保持や防災空間	53	20.7%	92	35.9%
5. 市民の農業体験の場	0	0.0%	6	2.3%
6. 子どもの情操教育、環境教育	8	3.1%	30	11.7%
7. 季節の変化を感じさせる役割	22	8.6%	80	31.3%
8. 地表温度の低下や大気の浄化機能	21	8.2%	62	24.2%
9. その他	0	0.0%	8	3.1%
合計	184	71.9%	432	168.8%

問 34. あなたが今後の農業施策で最も重視して欲しいものは何ですか。最も当てはまるもの 1 つに◎印を、次に当てはまるものに 4 つまで○印をつけてください。

表 3-124 は、今後の農業施策で重視して欲しいものを表している。「最も当てはまる」ものとして、「22. 税制の改革(50 件、19.5%)」が最も多く、次いで「1. 環境保全型農業の推進(23 件、9.0%)」、「3. 個人直売所への支援(13 件、5.1%)」であった。

「次に当てはまる」ものとして、「22. 税制の改革(87 件、34.0%)」が最も多く、次に、「18. 農機購入に対する補助(86 件、33.6%)」「17. 農業用施設等への補助(62 件、24.2%)」であった。

表 3-124 今後の農業施策で重視して欲しいもの

(有効回答数:256)

	最も当てはまる(◎)		次に当てはまる(○)	
	件数	割合	件数	割合
1. 環境保全型農業の推進	23	9.0%	45	17.6%
2. 小平産農産物ブランド化の推進	10	3.9%	42	16.4%
3. 個人直売所への支援	13	5.1%	53	20.7%
4. 共同直売所への支援	3	1.2%	26	10.2%
5. 販路の拡大支援	7	2.7%	33	12.9%
6. 農業技術指導の充実	9	3.5%	50	19.5%
7. 農業経営の指導の充実	3	1.2%	18	7.0%
8. 生産者グループの組織強化	0	0.0%	12	4.7%
9. 援農ボランティア等の担い手の確保	2	0.8%	40	15.6%
10. 土留め整備等農地保全についての対策	2	0.8%	20	7.8%
11. 市場出荷への支援野菜の残滓、剪定枝等、資源堆肥化システムの構築	1	0.4%	11	4.3%
12. 野菜の残滓、剪定枝等、資源堆肥化システムの構築	9	3.5%	50	19.5%
13. 市民農園	1	0.4%	14	5.5%
14. 農業体験農園	1	0.4%	4	1.6%
15. 観光農園	0	0.0%	6	2.3%
16. 学童農園	0	0.0%	5	2.0%
17. 農業用施設等への補助	11	4.3%	62	24.2%
18. 農機購入に対する補助	10	3.9%	86	33.6%
19. 市民との交流事業の推進	0	0.0%	13	5.1%
20. 農業関連情報広報の充実	0	0.0%	8	3.1%
21. 農作業の委託	0	0.0%	23	9.0%
22. 税制の改革	50	19.5%	87	34.0%
23. その他	1	0.4%	5	2.0%
合計	156	60.9%	713	278.5%

## 8) 小括

生産・販売、農地、担い手及び農業経営などについてのアンケート調査とヒアリング調査の結果とその分析から以下の点が明らかになった。

- 農産物の販売は、個人による直売が最も多い。
- 現状の農家の収入は不動産収入に大きく依存しているが、農業収入の増加を望む声は強い。
- 所有農地面積の大きな農家は、後継者がいる割合が高い。
- 半数以上の農家では後継者に恵まれているが、後継者が決まっていない農家もある。
- 休日や労働時間を定めてワークライフバランスのとれた農業経営を実践、または今後検討している農家も一定数見られた。
- 有機栽培や減農薬栽培は、安全な農作物を望む市民のニーズがある一方で、手間や費用がかかることなどが課題となっている。
- 農家は、農産物の販売を通じた市民との交流を希望している。